

国際共同研究を通じた世界最高水準の自然科学研究の推進及び世界最先端の共同利用・共同研究環境を用いて我が国の大学等の研究力強化への寄与を目標とし、①国際的先端研究の推進支援、②国内の共同利用・共同研究の推進支援、③国内外への情報発信・広報力強化、及び④若手・女性・外国人研究者の支援を強化する。併せて、大学等と連携して、自然科学研究分野における共同利用・共同研究を一層推進するとともに、URAのスキルアップとキャリアアップを目的とした「自然科学系研究力強化ネットワーク」の形成を図る。

1

外国の大学や研究機関との連携  
共同利用・共同研究の推進  
優秀な外国人研究者の勧誘

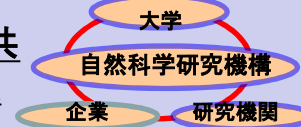
国際的先端研究  
の推進支援



大学・研究機関との連携  
共同利用・共同研究の推進

2

国内の共同利用・共同研究の推進支援



**自然科学研究機構の研究力強化**

- 目標1： 国際共同研究を通じて世界最高水準の自然科学研究を推進  
－世界最先端機器を開発整備し世界の先端研究機関との共同研究強化－
- 目標2： 世界最先端の共同利用・共同研究環境を用いて大学等の研究力強化に寄与

国内外への情報発信・広報力強化



3

国民との対話推進  
英語での情報発信・国際広報

研究者支援(若手・女性・外国人)



4

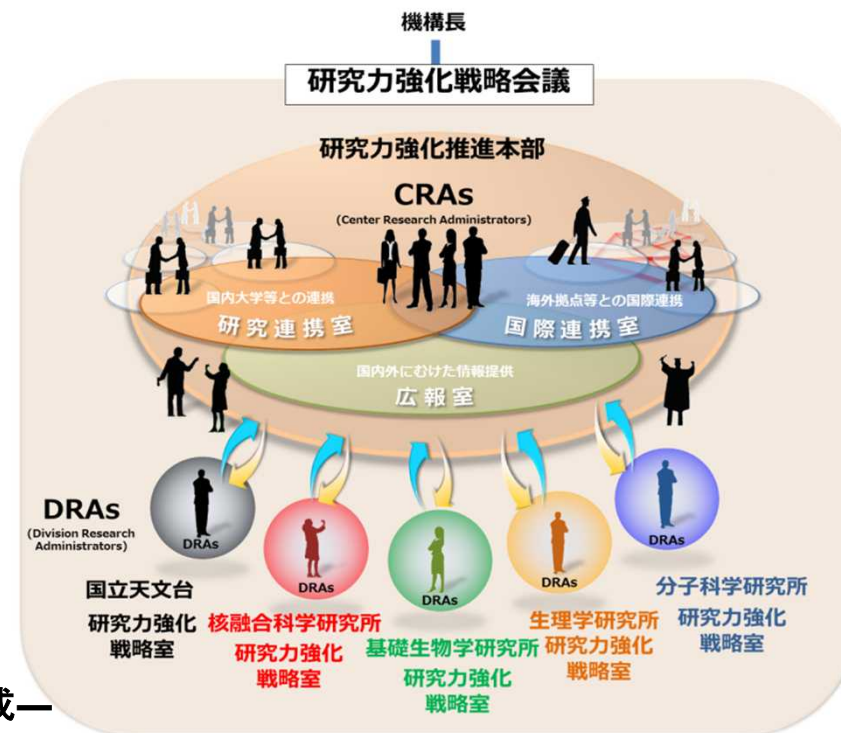
研究環境の多様性とそのサポート体制  
の整備

## ● 研究力強化のための組織体制の整備

機構本部に「研究力強化推進本部」、各機関に「研究力強化戦略室」を新たに設け、これを機構長の下で「研究力強化戦略会議」として一体運営

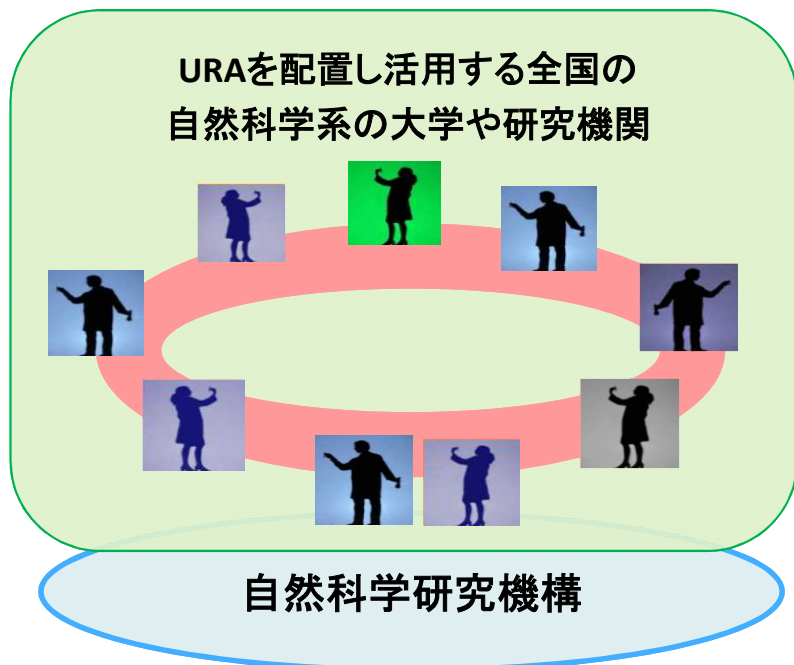
機構本部にURA (CRAs: Center Research Administrators) を置き、機構全体としての活動の企画・立案、国際連携、大学・研究機関との連携、自然科学系URAネットワークの構築を担当

URA (DRAs: Division Research Administrators) を各機関の「研究力強化戦略室」に配置し、各自然科学研究分野における共同利用・共同研究の環境整備と研究者支援、研究力強化を担当



## ● 大学・研究機関の研究力強化のためのネットワークの構築

—自然科学系を中心とした共同利用・共同研究の強化推進とURA人材育成—



### 【大学・研究機関の研究力強化のためのネットワークの構築】

1. 自然科学研究分野や融合的・複合的領域における共同利用・共同研究推進のための情報交換
2. 上記を目的とした研究力強化にかかわるURAのスキルアップのための研修会等の企画・実施
3. URAのキャリアパス形成に向けた人材交流の検討及び推進
4. 広報ネットワークの形成 など



**URAシステムを定着させ、自然科学系の大学の研究力強化・支援機能を拡大**

## 柱1：国際的先端研究の推進支援

### 【これまでの取り組み】

1. 国際大型プロジェクトの推進
2. 国際連携の推進



### 【強化方針】

1. 国際大型プロジェクトを担うURAの配置
2. 海外駐在URAの配置

## 柱2：国内の共同利用・共同研究の推進支援

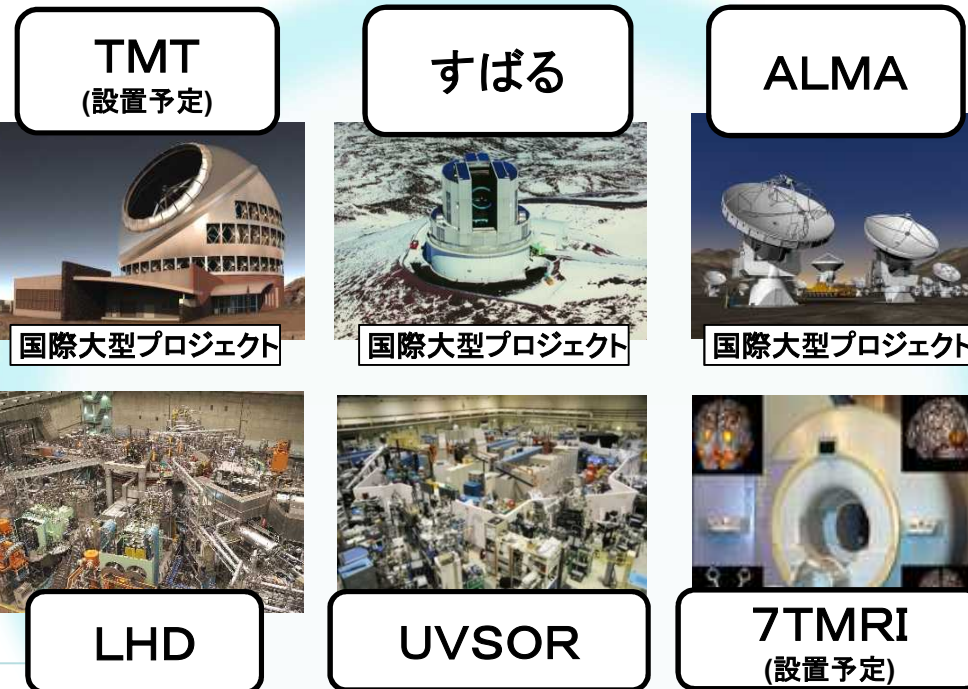
### 【これまでの取り組み】

1. 大型施設・共同利用機器を使った共同利用・共同研究
2. 新しい自然科学分野の創成と異分野連携の実現



### 【強化方針】

1. 異分野間双方向コミュニケーションに基づくシーズ探索型共同研究の支援
2. 自然科学における新分野開拓・異分野連携の強化
3. 産学連携の下での新しい機器開発、技術開発とその普及展開



**新分野開拓、シーズ探索型共同研究の推進**



## 柱3：国内外への情報発信・広報力強化

### 【これまでの取り組み】

1. 機構シンポジウムの開催
2. 各機関における広報（国民との対話の推進、プレスリリース、広報誌の発行）



### 【強化の方針】

1. 研究力強化推進本部に「広報室」を設置、URAを配置
2. 英語による国際広報力強化
3. 地域住民・市民との対話（科学リテラシーの向上）支援のURAを配置
4. 研究大学強化促進事業の成果の広報

機構長を“顔”とした広報  
メディアとの定期的な情報交換・発信の場を整備

日本の自然科学全体に関するメディア記者との交流サロンの開催

広報室URAと国際連携室で共同  
海外駐在型URAを活用し海外メディアへの情報発信

研究所の公開、市民向け学術講演会の開催、市民向け研究内容説明会の実施、研究所の見学を随時受付

研究大学強化促進事業の取り組みにおける成果と、URAの役割と意義について積極的な情報発信

研究力強化による成果のデータベースを作り、公開

## 柱4：若手・女性・外国人研究者支援

※（ ）内は、平成25年5月1日現在の割合を示す

(A)若手研究者  
機構全体として、若手研究者(本務者)の割合(34.5%)



(A)若手研究者  
現在の比率35%を維持しながら、優秀な人材を育て、国内外の大学等に輩出する。

(B)女性研究者  
女性研究者(本務者)の割合(6.9%)



(B)女性研究者  
5年後10%、10年後15%に引き上げる。運営会議、人事選考委員会など重要会議における女性委員の割合を、関連学会と連携し増やす。

(C)外国人研究者  
外国人研究者(本務者)の割合(2.1%)



(C)外国人研究者  
機構全体で5年後には5%、10年後には10%を雇用する。

(D)外国人大学院生  
総合研究大学院大学との連携のもと、外国人大学院生の割合(29.4%)



(D)外国人大学院生  
機構全体で30%を維持し、海外でのリクルート活動を通じて、より優秀な学生の獲得を目指す。

### ● URAのキャリアパス整備

機構内におけるURAのキャリアパスの整備だけでなく、研究・大学運営・広報などのキャリアパスとのオーバーラップによるキャリアパスの多様性の確保と相互人材交流を図る。